

## キャンベラにおける華人社会の空間構造

葉 倩瑋\*・筒井由紀乃\*\*・松井圭介\*\*\*・堤 純\*\*\*・吉田道代\*\*\*\*

\*茨城大学人文学部, \*\*追手門学院大学国際教養学部,

\*\*\*筑波大学生命環境系, \*\*\*\*和歌山大学観光学部

近年オーストラリアにおいて中国系移民（華人）が急速に増加している。首都キャンベラでは、とくにその割合は高く、2006年から2011年の5年間でほぼ倍増した。キャンベラで華人人口が増加し始めたのは、天安門事件発生後の1990年以降で、2014年現在、17の華人団体が形成されている。キャンベラの華人社会の特徴は、出身地や目的等を異にするこれらの団体が、一つの組織を形成し、相互に協力し連携し合いながら、キャンベラの華人社会全体をまとめていることである。またキャンベラが政治・行政機能に特化した首都であるという地域性を反映し、華人社会においても公務員と学生が圧倒的に多い。そのため華人社会の空間構造は、他都市のように出身地ごとの居住分化はみられず、来豪年および収入によって、華人社会の空間構造が分化していることが明らかとなった。

キーワード：華人，移民，社会空間構造，キャンベラ，多文化主義

### I はじめに

オーストラリアでは近年、中国からの移民の増加が顕著である。1996年から2011年の15年間に、中国籍人口は3倍に増加した。また2012年における中国生まれ人口は、外国生まれ人口の中でイギリス、ニュージーランド生まれに次いで3番目に多く、移民人口全体の6.5%を占めている。本研究では、社会の「アジア化」が進むオーストラリアにおいて急速に増加する中国系（華僑・華人）移民に焦点をあて、その移住の歴史的過程をふまえた上で、華人社会の空間構造の変化について、首都キャンベラを事例に考察する。

### II オーストラリアにおける中国系移民

中国からの移民は、19世紀半ばからオーストラリアに多く移住していたが、白豪主義による人口減少の時期をはさみ、1980年代から増加に転じている。その傾向は2000年以降とくに顕著で、2006年から2010年の5年間で44,000人から80,000人へと1.8倍に増加した。本章ではまず、オース

トラリアにおける中国系移民の移住過程をみておきたい。

#### 1. オーストラリアへの中国人移民過程

1842年、南京条約によって中国では上海、寧波、厦門、広州、福州の港が開港され、多くの中国人が契約労働者としてこれらの港から海外へと渡った。時期を同じくしてアメリカやオーストラリアでゴールドラッシュが始まり、これらの地域から大量の移民を輩出するきっかけとなった。

ゴールドラッシュ以前におけるオーストラリアへの中国人移民は、民間業者やオーストラリア農業会社（Australian Agricultural Company）と契約を結んだ農園や牧場での年季契約労働者であった。これらの労働者は多くが福建省厦門から渡航して来た者たちである（Jack, 2001: 49）。中国人労働者の増加の背景には、イギリスがオーストラリアへの流刑を廃止したことにより、囚人に代わる労働力が必要になったことも挙げられる。1851年の金鉱発見以後、ニューサウスウェールズ州（New South Wales, 以後NSW州）とビクトリア

州では自由移民が増え、中国系移民も増大した。

ゴールドラッシュ以降、NSW州やビクトリア州に移民した中国系移民は、広東省の珠江周辺出身者が多かった(Choi, 1975: 18)。その後の移民はチェーンマイグレーションにより、この地域からの出身者が増加した。中国系住民の人口はNSW州で1856年3月の1,806人から1861年センサスでは12,986人に増加した。またビクトリア州では1854年の2,341人から1855年初めには10,000人を越え、1855年半ばには17,000人に、1857年には25,424人に達した。1859年には少なくとも42,000人の中国人が居住し、そのほとんどは成人男性であった(Choi, 1975: 19)。

この時期における中国人の主要な居住地はシドニーやメルボルンなどの都市ではなく、金鉱など鉱山周辺の町や村であった。小規模な地域での中国人の増加は、白人社会における「異分子」を可視化し、中国人・有色人種排斥へとつながった<sup>1)</sup>。

増加する中国人を憂慮した各植民地は「ある特定の移民」に対する規制を布くようになる。1855年6月、ビクトリア州では入港する各船舶10トンにつき中国人は1名に制限し、また到着時には10ポンドの税金を課した(Yarwood, 1968: 20)。これがオーストラリアにおける中国人入国制限に関する最初の法律であった。NSW州でも1861年に同様の中国系移民の制限に関する法律が発効し、その結果、中国人人口は1861～71年の間にNSW州では5,800人、ビクトリア州では7,000人減少した。同時期にビクトリアとNSW州でのゴールドラッシュが一段落したこともその要因の一つである。クイーンズランド州で1870年代、西オーストラリア州で1890年代に金鉱が発見されると、中国人労働者はこれらの地域で増加したが、当初中国人労働者の受容に寛容であったこれらの州でも、白人と中国人との対立が強まり、移民規制への動きが強まった。

## 2. 白豪主義政策：1901年～1970年ごろ

1888年の中国人移民制限法制定により中国人人口は減少していった。1901年連邦成立当時29,627人(全人口比0.78%)だった中国系移民の人口は、1921年には17,157人(同0.31%)、1947年には9,144人(0.12%、このうち41%はオーストラリア生まれ)に減少した(Choi, 1975: 42)。この人口減少は流入人口の減少以上に、出国者の増加を示している。移民制限下でもオーストラリアへの中国人の入国は年間1,000～3,000人程度あったが、1910年代以降はほぼ毎年出国者が入国者を大幅に上回るようになった(Choi, 1975: 42)。もともと金鉱などでの労働者は契約による年季労働者であったので、一定期間が過ぎれば帰国する者が多かったのである。

しかし、1936年の日華事変と太平洋戦争勃発後は、多くの避難民がオーストラリアへ移住した。そのなかには中国人船員で帰国を拒否した者、香港や太平洋諸島から日本に占領される前に避難してきたものが含まれた(Williams, 1999: 7)。

第二次世界大戦後、労働力が著しく欠乏したオーストラリアでは、労働人口確保のため、外国からの移民導入計画を策定したが、依然アジアからの移民は制限されていた。1950年代になるとコロombo・プランによりオーストラリアでも発展途上国からの留学生を受け入れるようになり、地理的近接性からとくに東南アジアから多くの留学生を受け入れた。そのため1950年代以降の中国系移民は東南アジア(マレーシア、シンガポール、インドネシア、ベトナム)からの華人留学生がその多くを占めることになった。1950～1970年代は中国大陸からの移民が停滞し、東南アジアの中国系移民が増加した時期である。

## 3. 多文化主義政策：1970年代以降

1970年代以降、白豪主義の撤廃と多文化主義

政策の導入という政策転換により、アジア系移民が増大していく。中国系移民に関しては1970年代におけるベトナム・カンボジア難民受け入れをはじめとして、1980～1990年代には、香港・台湾からの経済移民が増大した。さらに1989年の天安門事件以降には、中国大陸からの移民が急激に増加していくことになった。その背景にはオーストラリア政府が天安門事件発生を受けて中国人留学生に対して永久ビザを発行したことがある。学生としての在留期間終了後もオーストラリアにとどまる中国人留学生も多かったため、中国籍移民の人口は増加した。2001年以降その人口はさらに急速に増加していることがわかる（図1）。

以上みてきたように、オーストラリアにおける中国系移民は、白豪主義の時代を除いてはオーストラリア社会において、「マイノリティのなかのマジョリティ」としての位置を占めてきたが、近年は、人口構成上でも社会経済および政治上でもその存在感が増している。

### Ⅲ キャンペラにおける華人社会

オーストラリアの大都市には数多くの中国人コミュニティがあり、チャイナタウンが形成されている。その基盤は、ゴールドラッシュ時の大量移民を契機に形成されたものである。ゴールドラッシュは各州で20年程度で終息し、その後、都市型の職業、すなわち家具職人、市場菜園経営・労働者、調理人、漁業、洗濯屋、商店経営、貿易などに従事する者が増加した。市場菜園はとくに都市近郊でさかんになり、1885年、シドニーでは54の中国人の市場菜園があり、1901年にはNSW州の67%の市場菜園従事者を中国人が占め（Australian Heritage Commission, 2002: A12）、中国人労働者が従事する職業のうち35%は市場菜園従事者であった（Choi, 1975: 31）。

海外に居住する中国人＝華僑・華人は、そのコミュニティの結束の強さ、ネットワークの強さを特徴とする。オーストラリアでも初期の中国系移

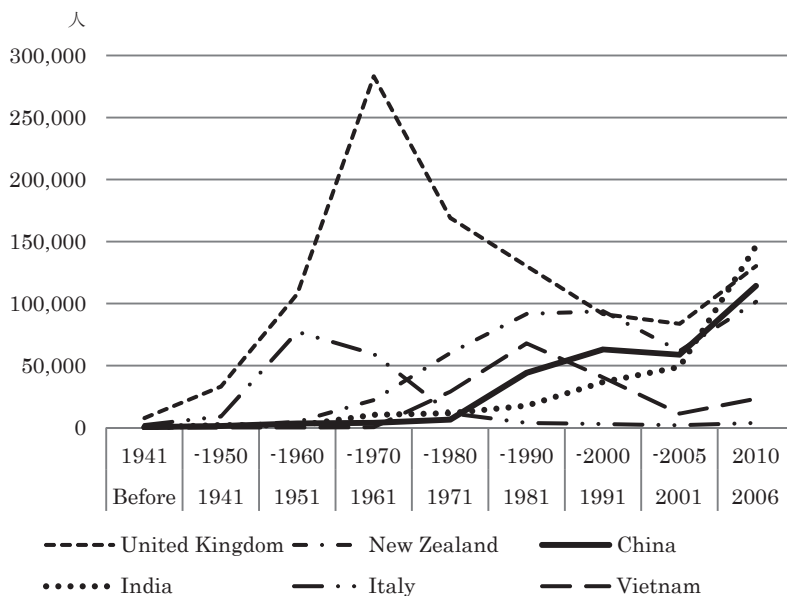


図1 オーストラリアにおける移民の推移

(Australian Bureau of Statistics の統計により作成)

民は同族や同郷、地域などの単位でコミュニティを形成し、相互扶助を図った。先述のように、もともと中国から移民する際には、同郷者が共に渡航し、先に渡航していた同郷者に合流するチェーンマイグレーションを行っていたため、移住当初はそうした同郷者同士でのコミュニティ形成がなされた。たとえば広東省の潮州出身者の「潮州同郷会」、福建省福州出身者の「福州同郷会」などがある。現在シドニーやメルボルンのチャイナタウンには、広東省の四地区（新會、台山、開平、恩平）を合わせた同郷会「四邑同郷会」が立地している。

本章では、シドニーやメルボルンといった大都市とは異なるコミュニティ形成過程をたどった首都キャンベラの中国系移民のコミュニティ形成の特徴を考察し、その社会空間構造の変化について検討していきたい。

## 1. キャンベラにおけるエスニック構造

まず2010年のデータからキャンベラにおけるエスニック構造をみると、中国およびインド出身者の移民の人口割合が他都市に比べて高いことがわかる。オーストラリア全土、メルボルン、シドニーをはじめ他の州都においてはイギリス出身者に次いでニュージーランド出身者やイタリア出身者が多いのが一般的であるのに対し、キャンベラでは中国およびインド出身者の割合が高い特徴がある（表1）。

中国系移民は、中国、香港、台湾出身者だけでなく、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ベトナムなど華人人口の多い東南アジア出身者なども含み、多様性に富むことが特徴である。これら中国系移民について出生地別の割合をみると、1971年まではマレーシア系華人、その後ベトナム系華人が増加し、1991年からは中国大陸出身者が増加している（図1）。これは前章でみたよ

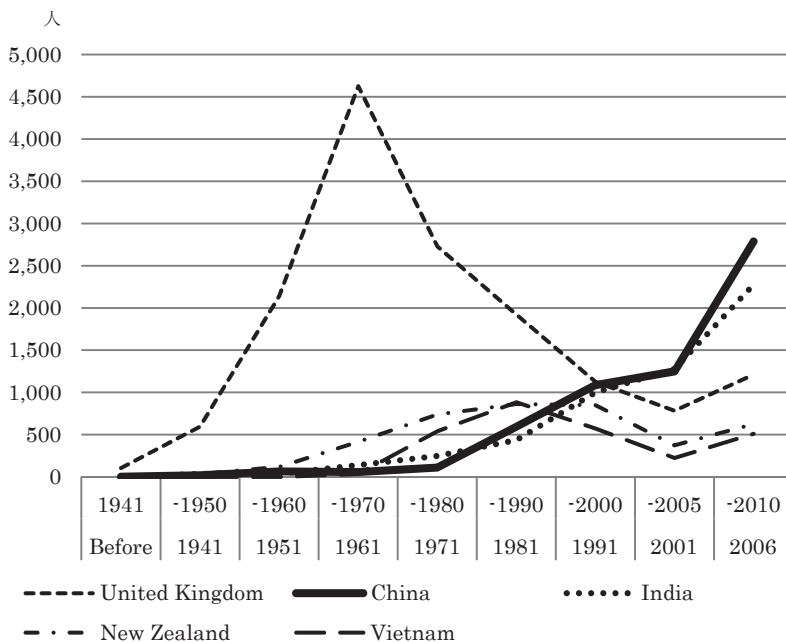


図2 キャンベラにおける移民の推移

(Australian Bureau of Statistics の統計により作成)

表1 キャンベラにおける出身地別人口割合

出身国	キャンベラ		全国
	人	%	%
Australia	254,622	71.4	69.8
England	13,030	3.7	4.2
China	6,572	1.8	1.5
India	5,879	1.6	1.4
New Zealand	4,369	1.2	2.2
Vietnam	2,957	0.8	0.9
その他	69,157	19.5	20
キャンベラ総人口	356,586	100	100

(Australian Bureau of Statistics の統計により作成)

うに、1950年代からはコロombo・プランによるマレーシアなど東南アジアからの留学生が多く、1970年代からはベトナム難民、天安門事件後の1990年代からは中国からの移民が増加していったオーストラリアの全国的動向と同様である。

## 2. キャンベラにおける華人社会の形成

### 1) 華人団体の創立

キャンベラにおける華人人口は、1970年代に至ってもなお700人程度にとどまり<sup>2)</sup>、華人団体を組織するほどの人口規模ではなかった。華人人口が1,500人を超えた1980年にはCanberra Chinese Clubが設立され、華人同士の連携や華人子弟への中国語教育、定期的なコミュニティ活動が行われるようになった<sup>3)</sup>。Canberra Chinese Clubは正式な華人団体として登録されてはなかったが、キャンベラの民族団体理事会であるACT Ethnic Community Councilに属した最初の華人団体であった。最初に正式に組織された華人団体はACT Chinese Australian Association (ACTCAA)で、1988年のことである。

1990年代、中国大陸からの移民が増加すると次々に新たな華人団体が設立された。キャンベラ上海会(堪培拉上海会)、キャンベラ北京会(堪培拉北京会)、キャンベラ中国学生学者聯誼会(堪

培拉中国学生学者聯誼会)、キャンベラ中華文化協会(堪培拉中華文化協会)など、いずれも大陸出身者が主体の団体組織である(馮編, 2013: 322)。また既存の諸団体においても大陸出身者の占める割合が高くなっていった(馮編, 2013: 322)。

### 2) 華人団体の機能

2014年現在、キャンベラには華人団体は19団体設立されている。これらの華人団体を統括する団体がFederation of Chinese Associations of Australian Capital Territory(オーストラリア首都華人社団聯合会、FCAACT)である。2001年に成立したこの団体の目的は、①華人コミュニティの団結と共同利益を追求すること、②各コミュニティ同士が一致賛同した活動の展開、③コミュニティ間の調和と協力関係の促進、④コミュニティ間の重要問題についての定期的な意思疎通と協議、⑤オーストラリア政府の政策・計画に対して、異なる文化背景をもつ華人コミュニティと個人に対して諮問を進め、政府やオーストラリア社会に貢献することである(馮編, 2013: 324)。同会会長のChin Wong(黄陳桂芬)女史によれば、キャンベラにある華人団体の全てはこのFCAACTに属することが原則となっている。このように全華人団体を統括する組織が存在しているのは、オーストラリアにおいてはキャンベラが唯一の都市である。

華人団体の機能について、キャンベラで最初に設立されたコミュニティ、ACT Chinese Australian Association (ACTCAA)に焦点をあててみていきたい。

1980年代末におけるキャンベラの華人社会は、小さなグループは存在していたものの、まとまった組織が存在していなかったため、華人社会の声は、多文化主義のオーストラリア社会にありながら、「無言であり存在してこなかった」<sup>4)</sup>という状況があった。そこで、経済的、政治的、職業

表2 キャンベラ華人出身地別人口の推移

	～1971	1971 ～1980	1981 ～1990	1991 ～2000	2001 ～2010	計 (人)
中国	145	110	592	1,088	4,032	5,967
ホンコン	106	175	380	320	338	1,319
マレーシア	275	359	518	202	660	2,014
ベトナム	36	541	884	575	734	2,770
シンガポール	98	141	142	95	353	829
台湾	9	22	54	74	159	318
インドネシア	92	64	116	140	473	885
計	761	1,412	2,686	2,494	6,749	14,102

(Yearbook of Chinese in Australia 2013: 321により作成)

的、社会的階層に関係なく、個人的な利害を超えたキャンベラの華人社会全体を代表する組織が結成されるに至ったのである。それがACT Chinese Australian Association（堪培拉澳華会）である。

ACTCAAは、1988年6月26日香港出身の黄樹樑氏を会長に設立された。現在の会員数は家族も入れて約150名である<sup>5)</sup>。設立当時の会員の主な出身地は香港、東南アジア各国および中国広東地区であり、大陸出身者はまだ少数であった。

同会の設立趣旨は、①中国文化の促進と奨励、②華人のオーストラリア的生活様式・社会への統合促進、③キャンベラの華人コミュニティの福利と権益の増進、④新移民へのサポートの提供、⑤目的を共有する既存の団体やグループとかれらの本来の背景や目的を逸脱することなく提携、連携、交流し一層の融合を図ること、としている<sup>6)</sup>。

ACTCCAは団体組織としてのガバナンスが確立されており、会長は毎年会員による選挙で選ばれ、会長の下に副会長（2名）、財政委員、秘書、常任委員（10名）と顧問により委員会が形成されている。

創立当初の活動としては、会員間の親睦を図ることのほか、中国文化の推進を目的として中国の芸術作品の展示や公演を行ったり、新しく移住し

た華人へのサポートを行うことであった。設立の翌年1989年に天安門事件が発生し、その後急速に増加した中国からの新移民への援助がしばらく重要な活動として続いた<sup>7)</sup>。

その一方、1990年に政府からの補助を受け、一般向けの中国語会話教室を開始したほか、中国文化プロモーションの一環としてドラゴン・ボート大会を開催するようになった。ドラゴン・ボート大会は市民の関心を多く集め人気のイベントとなったが、開催に際する人的・財政的コストが膨大だったため4年で終了した<sup>8)</sup>。また、1994年からは週1回の広東語のラジオ放送を開始し、ボランティアによる放送は現在でも続いている。

ACTCAAは政府の多文化政策にも関与し、2002年からその事務所は、キャンベラ市政府のマルチカルチュラルセンター（Theo Notaras Multicultural Centre）内に置かれている。Wong会長によれば、実際にオーストラリア政府およびキャンベラ市政府の教育関係の事業などに関して、コンサルティングを行ったり、キャンベラの小学校における多文化教育支援などを行っているという。

一方、会員向け事業としては月1回ピクニックやパーティー、バス旅行、オペラ歌唱大会、カラ

オケ大会などが開かれている。毎回20~30人の参加者が集り、とくに高齢のメンバーが積極的に参加している<sup>9)</sup>。

またメンバーの高齢化に対応するため、ACT-CAAでは2007年にオーストラリア政府のAustralian Government Department of Health and Ageing under the Community Partners Program の基金を得て「キャンベラ 華人高齢者ケア情報および紹介サービス事業 (ACT Chinese Aged Care Information and Referral Service)」を開始した。2012年にも Aged Care Service Improvement and Healthy Aging Grants Fund を獲得して事業を継続している。その主要な活動は、華人コミュニティ向けの高齢者ケアサポートプログラムおよび在宅老人医療に関する最新かつ適切な情報提供である<sup>10)</sup>。具体的には、電話での高齢者ケアに関する問い合わせへの対応、民間、政府、コミュニティのケア事業への紹介、またこの事業に関係する人材育成などであり、いずれも中国語によるサービスがボランティアで行われている (図3)。

これらのサービスに加え、高齢者向けに多くのプログラムが提供されている。カラオケは2000年ごろから毎月の活動として行われていたが、2009年からは太極拳、カラオケ、ダンス、英語クラスなどが毎週火曜日に開かれている。これらのクラスの後には麻雀やコーラスグループが活動を行っている。

設立以来、キャンベラ中心部のCivicでこれらの活動が行われていたが、郊外に住む高齢の参加者にとってCivicまで出かけるのは交通が不便なため、近年は新興住宅地のタウンセンターであるガンガーリン (Gungahlin) のレイダース (Raiders Gungahlin)<sup>11)</sup>で、毎週水曜日に開催されるようになった。参加費はランチ付で8ドル (約760円<sup>12)</sup>)で、毎週平均60人が参加し、Civicで開催されていた時より参加者も増え好評だという<sup>13)</sup>。これらの活動はいずれもメンバー以外の人々も参加可能となっている。


キャンベラの華人社会では現在、移民1世の世代で高齢化が進行している。最も古い華人団体で

### Volunteers Recruitment

- Do you want to do something for the Chinese community?
- Do you have some spare time during the week?
- Do you want to know new friends?
- Do you want to learn some new skills?

If yes above, please come to be our volunteers.

We are looking for volunteers who like to help and support our seniors.



*For Further Information, Please Contact or Visit Our Office*

**OFFICE LOCATION**  
THEO NOTARAS MULTICULTURAL CENTRE  
ROOM 9, LEVEL 2, 180 LONDON CIRCUIT,  
CANBERRA 2601

**SERVICE HOURS**  
MONDAY-FRIDAY, 10.00 AM-3.00 PM


**TEL** 02 6248 5929      **MOBILE** 0434 911 421

**FAX** 02 6248 9359      **WEBSITE** actcaa.org.au/actcaois

**EMAIL** actcaois@bigpond.com

**MAIL** GPO BOX 1006 CANBERRA ACT 2601

**Location Map**





**ACT Chinese  
Aged Care Information  
and Referral Service**

(A service provided by the ACT Chinese Australian Association Inc.)



Funded by the Australian Government,  
Department of Health and Ageing under the  
the Aged Care Service Improvement and  
Health Ageing Grants (ACSIHAG)

図3 キャンベラ高齢者ケア情報と紹介サービスブックレット  
(ACT Chinese Aged Care Information and Referral Service ホームページより作成)

あるACTCAAは、呼び寄せプログラムで来豪した親世代の高齢化、加えて創立当時のメンバーも高齢化したことから、高齢者向けのプログラムの充実化を図っている。

### 3. キャンベラ華人コミュニティの特徴

キャンベラには1988年以降、20近い華人コミュニティが形成されてきた<sup>14)</sup>。これらキャンベラにおける華人コミュニティの特徴についてここでは考察していく。

キャンベラの華人コミュニティの特徴としてまず挙げられるのは、「完備性」である。キャンベラにある華人団体は、同郷会、学生会、総合サービス型団体、商会、中国語教育機構、ニュース機構、同業者組合などさまざまな団体が結成され、これらは華人コミュニティのあらゆる方面での需要を網羅するものである。

第2に「凝集性」、華人団体間の緊密な紐帯と協同活動である（馮編，2013: 323）。キャンベラの主要華人コミュニティの代表が集結し、キャンベラの全コミュニティを統括するFCAACを結成したことは先に述べたが、新年の祝賀行事やマルチカルチュラル・フェスティバルの開催などに関して意見交換を行い協力して実施しているほか、首都キャンベラを訪問する中国要人の接待や災害援助、重要な国際的活動などに積極的に関与し、オーストラリアと中国政府間交流や民間交流の促進を図るなど、必要に応じて集結し協力し合う姿勢がある<sup>15)</sup>。

第3の特徴は、会員の職業的専門性の高さで政府との密接な連係である。上記のようにキャンベラの華人団体の完備性と凝集性が高いのは、各コミュニティリーダーの主導意識が高いからといえる。その背景には、キャンベラ在住華人には国家公務員や専門職に従事する者が多いことが挙げられよう。こうしたメンバーを介して政府と華人コ

ミュニティ間にきわめて密接な関係が形成されているのである。すなわち政府の政策や行政に詳しい華人が多く、マルチカルチュラルリズムに関連する活動の展開や資金申請に豊富な経験があること、また少数民族コミュニティの発展を目指す政府の多民族政策の下で、コミュニティと政府の利害が一致し、首都にあるということで財的資源を獲得しやすい位置にいたということである（馮編，2013: 322）。

こうしたキャンベラ華人社会の完備性と凝集力の高さは、キャンベラの産業構造と政策環境とも密接に関係している。次章では、キャンベラの都市構造と華人社会の空間構造との関係について考察していく。

## IV キャンベラの都市構造と華人社会空間構造

### 1. キャンベラの都市的特性と都市構造

前章第3節でみたキャンベラの華人社会の特徴は、首都キャンベラの都市としての特性と深く関連している。一つはキャンベラが都市としての歴史が浅い新興都市であること、もう一つは首都であることである。

キャンベラの都市形成は首都として選定された1911年に始まる。1901年のオーストラリア連邦建国後、シドニーの南西約300kmに位置するキャンベラが首都として選定された。都市建設にあたって、1911年に都市計画案の国際コンペによる募集が行われ、その結果、田園都市計画の影響を受けたアメリカ人のウォルター・バーレー・グリフィンの案が選ばれた。1913年から首都の建設が始まったものの、2度にわたる世界大戦や世界恐慌による財政難、また都市計画担当の委員とグリフィンとの意見対立などでその建設はなかなか進まなかった。国会議事堂が完成し<sup>16)</sup>、政府がキャンベラに移ったのが1927年、その時点でも人口は9,000人弱であった。首都建設が本格的に



始まったのは1960年代に入ってからである。

グリフィンによるキャンベラの都市構造の特徴は、都市中央に位置する人口湖をはさみ、市を南北に分けている。北側には商業施設や住宅、大学などを置き、市民生活・経済的機能を集約したCity Centre (Civic)、南側に政治的中心となる国会議事堂や国立図書館、各省庁、大使館などの政治的機能を集約させたCapital Centreを置いた。湖をはさんで位置するCity HillとCapital Hill、さらに湖北側に建設された戦争記念館の3地点を結ぶ正三角形のラインを「ナショナル・トライアングル」とし、この中に国家の重要な施設を集約させたのである(図4)。

また郊外には過密化を防ぐため中心部から約10～20kmごとに住宅地区 (Residential Districts) および商業的・社会的中心となるタウンセンターを置き、都市機能の分散化を図った。各住宅地区はさらにサバープ (Suburbs) に細分化され、2015年現在、七つの住宅地区があり各地区に8～25のサバープが置かれている。最も古い地区はグリフィン湖に接する1925年に建設に始まったキャンベラ・セントラル (North Canberra & South Canberra) 地区である。最も新しい地区は2010年に計画が始まったモロングロ・バレー (Molonglo Valley) だが、2014年時点ではまだ開発が進んでいない。現在、新興地区として最も開

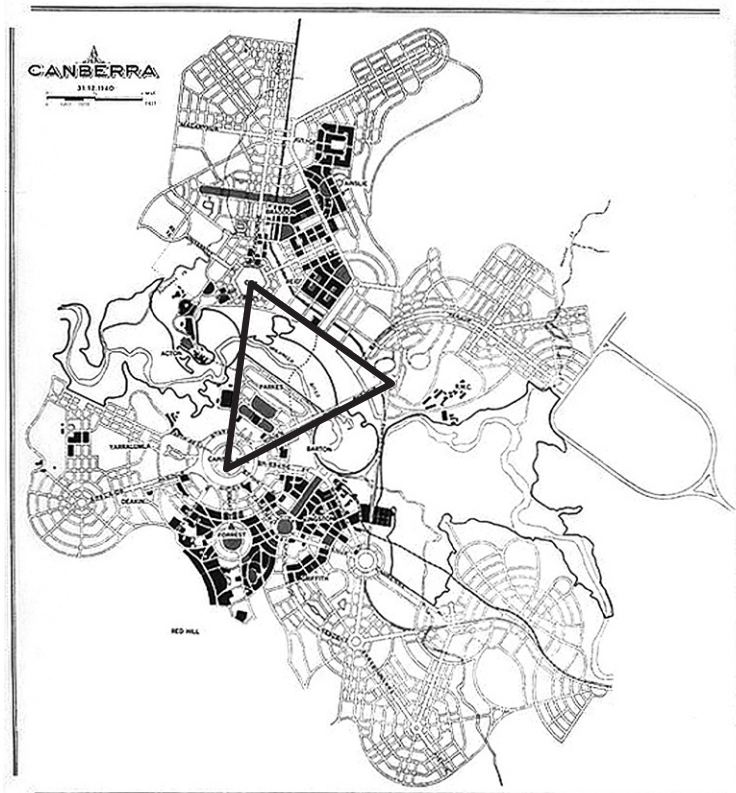


図4 キャンベラの地図 (1941年)

図中の△が「ナショナル・トライアングル」。

(国立図書館所蔵地図に筆者加筆)

発が進んでいるのが1990年代に開発が始まった北郊のガンガーリンである（図5）。ガンガーリンは市の中心部から北に約10kmに位置し、その人口は、2001年から2011年の10年間で23,098人から46,971人に倍増し、北京語を話す人口も10年間に3.2%増加した。ガンガーリン地区における中国籍人口が占める割合は6.8%となっており、キャンベラ全体における中国籍の割合1.8%、全国における割合1.5%に比べ、中国籍人口の占める割合が高い地区となっている。

このようにキャンベラは、都市建設が始まってまだ1世紀の歴史の新しい新興都市であることが民族の居住分布、さらには華人の完備性、凝集性の高さに影響を与えているといえる。

また首都であるキャンベラは、都市機能が政治・行政機能に特化した都市である。この都市機能もキャンベラの華人社会の特徴を規定している。

2011年における就業構造は、中央行政官庁関係が20.1%、防衛関係が5.7%、初等・中等教育関係が3.7%、高等教育が3.7%となっている（ABS, 2011）。全国と比較して政府関係従事者および高等教育関係従事者が明らかに高い（表3）。国家行政機関、大使館、軍関係機関、研究機関、国立大学などの立地により高所得層が多く、その一方で低所得な学生も多いことが特徴で、社会階層が

表3 キャンベラの産業別人口構造（2011年）

職業	キャンベラ		全国
	人	%	%
中央官庁行政	39,307	20.1	1.3
防衛関係	11,214	5.7	0.7
カフェ、レストラン	7,587	3.9	4.1
初等・中等教育	7,240	3.7	4.6
高等教育	7,237	3.7	2

（Australian Bureau of Statistics の統計により作成）

二分されていることが首都キャンベラの人口構造の特徴となっている。

## 2. 華人社会の空間構造

上に述べたキャンベラの都市的特性を反映し、華人社会の社会階層も公務員および専門・技術職に従事する高所得者層と学生（留学生）に分かれる。そこで華人の出身地別の居住地域について、北京語を話すグループと広東語を話すグループに分けて検討していく。出身地については家庭で話す言葉によって分類する。広東語を話すグループは、来豪年が古く、キャンベラ居住歴の長い香港出身者や東南アジア出身華人が多い。一方、北京語を話すグループは1990年以降増加した、相対的に居住歴の短い中国大陸出身者が多いと考えられる。

まず北京語を話すグループの分布をみると（図6）、キャンベラの北部のガンガーリンに集中していることがわかる。ガンガーリンは、前章第1節で述べたように、1990年代に開発の始まった新興住宅地区で、現在も開発が続いている。ガンガーリン周辺には、北京語を話すグループのうち、高所得層（世帯収入週1,000豪ドル以上）が多いことがわかる。このように、キャンベラ居住歴の短い北京語を話す高所得者が戸建の居住地を選好する場合、人口密度も家賃／住宅価格も高い中心部の住宅地区よりも、家賃／住宅価格が中心部に比べ安いガンガーリンを選好したものと考えられる。また、キャンベラの北端に位置するガンガーリンは、シドニーに車で行く場合に便利であることも、居住地として好まれる理由の一つである<sup>17)</sup>。

一方広東語を話すグループは、キャンベラを中心部キャンベラ・セントラル地区に比較的集中している（図7）。キャンベラ・セントラルは、最初に開発が進んだ住宅地区であり、移住時期が比

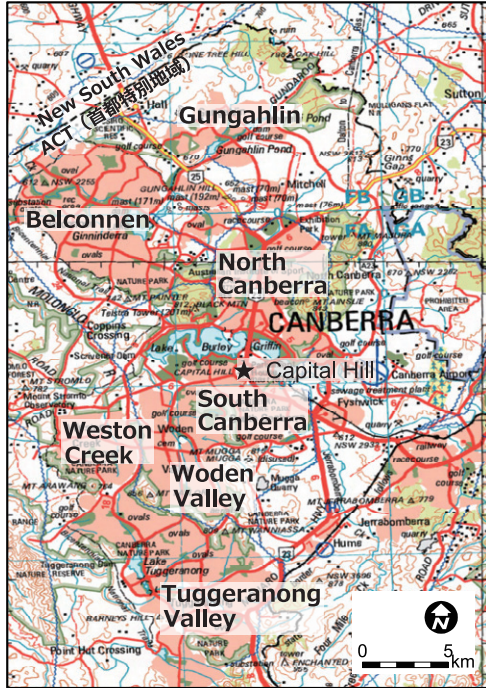


図5 キャンベラの7つの住宅地区  
(Geoscience Australia, NATMAP Digital Maps により作成)

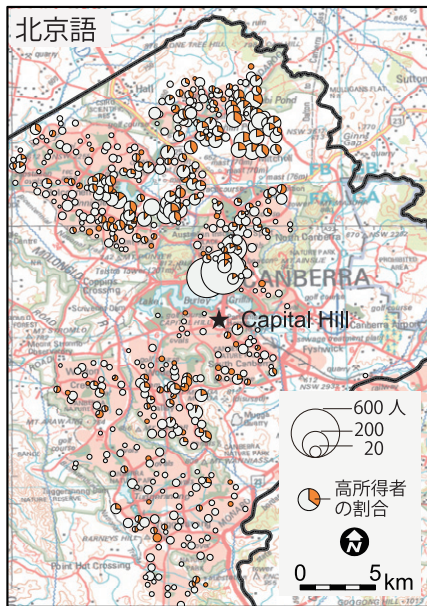


図6 キャンベラにおける北京語を話す人口の分布 (2011年)  
(Geoscience Australia, NATMAP Digital Maps およびABSのデータにより作成)

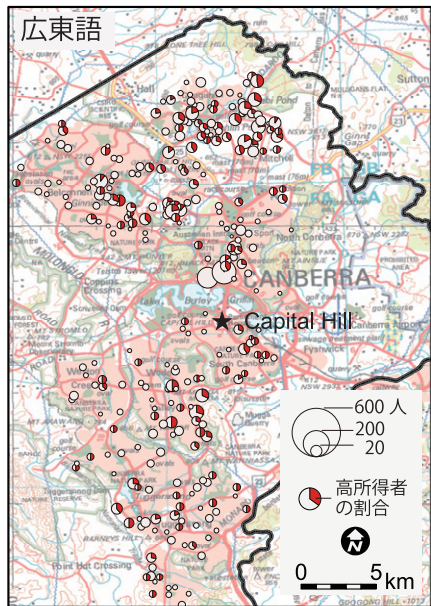


図7 キャンベラにおける広東語を話す人口の分布 (2011年)  
(Geoscience Australia, NATMAP Digital Maps およびABSのデータにより作成)

較的早かった香港・広東省出身者が居住地として選好した地区であったと考えられる。1960年代に移住してきた華人の多くは、国立大学や研究機関で働く教員や研究者が多く<sup>18)</sup>、大学や研究機関が立地するキャンベラ中心部に居住する傾向があったことがうかがえる。広東語を話すグループの高所得者層は、キャンベラ全域に分布している。来豪年が早く、その後毎年順調に増加していった広東語を話す華人は、キャンベラの都市としての成長と人口拡大が同調し、その結果、広東語を話す華人たちは、来豪した時に新興開発地であった地区に順に居住していったと考えられる。その結果、キャンベラ全域に居住地が広がったと考えられる。

一方、中～低所得者層の居住地分布をみると、北京語を話すグループも広東語を話すグループいづれもキャンベラ中心部に集中している。これはオーストラリア国立大学（ANU）が立地し、学生向けの住宅が多く分布しているためである。

キャンベラにおける華人社会の空間構造は、出身地によりまた収入によって明確な居住分化がみられる。来豪年の比較的早い広東語を話す華人は、古くから開発されたキャンベラ中心部に多く居住し、来豪年の遅い北京語を話す華人は、郊外の新興開発地区に居住する傾向が明らかとなった。とくに1998年から開発が始まった北部の新興住宅地区であるガンガーリンは、新移民の居住地として人気が高い。そのため華人をはじめアジア系住民の人口割合が高く、アジア系レストランや雑貨店などが最近増加している。

## V おわりに

キャンベラにおける華人社会は、文化背景などを異にする華人団体同士が相互に連携・協力関係し、華人コミュニティとしてゆるやかに一つにまとまり、オーストラリア社会との交流を行って

ることが最大の特徴といえる。

華人団体のコミュニティ活動としては、華人同士の親睦・交流、福利権益の増進や中国文化の促進、華人社会とオーストラリア社会の交流、新移民のサポートなどのほか、近年では、移民1世の高齢化に伴い、高齢者向けサービスが充実してきている。政府からの補助金やサポートを活用し、高齢者ケアにおいては他のエスニック団体に比べ格段に充実したサービスが提供されている。その一方で、華人子弟のための学校も1990年以降に数校設立され、その生徒数も2000年以降急速に増加している。しかし若い世代のコミュニティ活動への参加が少ないことが、キャンベラ華人コミュニティにおける最大の問題だとACTCCAのWong会長は憂慮している。若い世代をいかにコミュニティ活動に組み込んでいくかが現在の課題であると語る。

キャンベラの華人社会は政府・行政関係者、外交官、教育・研究専門職などに従事する高所得層と留学生を中心とする低所得層に社会階層が二分されていることもキャンベラの地域性を反映した特徴である。言い換えれば、職業としては上記以外に職業選択の余地は少なく、したがって職が定まらないままキャンベラを居住地として選好する移民は、きわめて少ないといえる。そのような移民はキャンベラではなく他都市を居住地として選ぶのである。

またキャンベラの都市が新興都市であり、政治・行政機能に都市機能が特化した首都であることも、キャンベラの華人社会の性格を規定している。つまり華人を含めた移民がキャンベラを居住地として選択する理由は、明確な「在留資格」を持っていることを前提とする。そのため、同郷者によるチェーンマイグレーションもあまり見られない。本研究で明らかにしたように、キャンベラにおける華人社会の空間構造は、エスニックな居

住分化ではなく、来豪時期および社会階層によって居住分化がなされている。

このような華人社会の状況を反映し、キャンベラにはチャイナタウンが形成されていない。エスニック・タウンとしては市中心部から3キロほどに位置するディクソンに、チャイニーズ・レストランのほか、多様なエスニック料理店・雑貨店が立地している。エスニック・タウンとしてのディクソンは、キャンベラにおける華人社会構造のゆるやかさのみならず、多文化構造のあり方をも示しているといえる。華人社会とエスニック・タウンの関係については次の研究課題としたい。

#### [付記]

本研究を執筆するにあたっては、ACT Chinese Australian Association会長のChin Wong氏ならびにDepartment of Social ServicesのJoanne Constantinides氏に大変お世話になりました。記してお礼申し上げます。

本稿は2012-2015年度科学研究費補助金「ネオ・リベラリズムの進展とアジア化するオーストラリア社会に関する人文地理学的研究」、基盤研究(B)(海外学術)研究代表者 堤 純(課題番号24401036)による成果の一部であり、本稿の骨子は、日本地理学会2015年春季学術大会(2015年3月28日:日本大学)において発表した。

#### 注

- 1) 急速に増加する中国人労働者にGoldfield Commissionが、白人労働者に対して中国人に関する意見を聴取した。その報告によれば、中国人は配偶者や家族を伴わないため、社会で有利な立場には立つことはできないだろう、といった意見がみられ、この時期における中国系移民に対する反感は「民族的優越感」よりも経済的な問題や文化的差異に起因するものであったといえる(Choi, 1975: 20)。
- 2) 当時のキャンベラの人口は14万人程度。
- 3) ACT Chinese Australian Association 現 会 長 Chin Wong (黄陳桂芬) 女史への聞き取りによる(2015年2月)。
- 4) ACT Chinese Australian Association Newsletter 1 p.1, August 1988.
- 5) 前掲 Wong 会長への聞き取りによる。
- 6) 同上。
- 7) 同上。
- 8) 同上。
- 9) 同上。
- 10) ACT Chinese Aged Care Information and Referral Service HP (2015年4月30日閲覧)  
[http://actcaa.org.au/actcacis/about\\_01.html](http://actcaa.org.au/actcacis/about_01.html)
- 11) キャンベラに本拠地を置くラグビーチーム「レイダース Raiders」のガンガーリンにあるクラブハウス。
- 12) 2015年4月末日時点でのレート。
- 13) 前掲 Wong 女史への聞き取りによる。
- 14) 同上。
- 15) 前掲 Wong 会長への聞き取りによる。
- 16) キャンベラの国会議事堂の完成まで、国会はメルボルンで開催されていた。
- 17) ガンガーリン在住の韓国人男性への聞き取りによる(2015年2月)。
- 18) 前掲 Wong 会長への聞き取りによる。

#### 文 献

- 馮小洋編(2014):『澳大利亞華人年鑑2013』(*Yearbook of Chinese in Australia* 2013) 澳大澳大利亞華人年鑑出版社。
- ACT Chinese Australian Association(1988): *Newsletter*, 1.
- Australian Heritage Commission (2002): *Tracking the Dragon*. National Library of Australia.
- Choi, C. (1975): *Chinese Migration and Settlement in Australia*. Sydney University Press.
- Jack, I. (2001): Some Less Familiar Aspects of the Chinese in 19th-Century Australia. *The Overseas Chinese in Australasia: History, Settlement and Interactions Proceedings*. Edited by A. C. Henry Chan and Nora Chiang. Taipei, National Taiwan University and The Australian National University: 44-53.
- Wilton, J. (2004): *Golden Threads. The Chinese in Regional New South Wales 1850-1950*. Powerhouse Publishing.
- Williams, M. (1999): *Chinese Settlement in New South Wales. A thematic history. A Report for the NSW Heritage Office of NSW*. NSW Heritage Office.
- Yarwood, A.T. (1968): *Attitude to Non-European Immigration*. Cassell Australia.